



武庫川女子大学が「武庫川線と赤胴車」を出版

60年以上、「赤胴車」と呼び親しまれた阪神電鉄の車両が、沿線住民の交流スペースとして7月10日、武庫川団地で新たな任務につくのを記念し、武庫川女子大学生活環境学部情報メディア学科の丸山健夫教授が「武庫川線と赤胴車」を出版しました。阪神電車の各駅長室で無料配布されます。

赤胴車は1958年にデビューし、2020年に引退した人気車両。武庫川団地に展示される赤胴車の車両は1974年に誕生し、西大阪線（当時）などで使用された後、1986年から武庫川線の専用車両となりました。

著書では、赤胴車の最後の活躍の場となった武庫川線について、その成り立ちや、戦争をはさんで時代とともに変化した役割などを解説。戦争末期、現在のJR甲子園口駅の隣接地に阪神電鉄「甲子園口」駅を建設する計画があったことを、新たな資料とともに明らかにしています。

また、「武庫川線を走った車両たち」として、赤胴車のほか、武庫川線が開業した1943年当時の1121形から、路面電車を改造した71形、赤胴車引退に伴い、2020年から導入され、「ジェットカー」の愛称で親しまれる5500系のカラフルなデザイン車両まで、各時代の車両を写真入りで紹介。武庫川団地ができる前の、競馬場やゴルフ場、飛行機工場と変遷した鳴尾の歴史も伝えています。

赤胴車は2020年6月に引退した最後の一両を記念として、独立行政法人都市再生機構が受け継ぎました。7月10日にオープニングイベントが行われ、武庫川団地西街区広場（西宮市高須町）で、地域の交流スペースとして活用されます。

「武庫川線と赤胴車」は阪神電車各駅長室（大阪梅田、尼崎、甲子園、御影、神戸三宮、新開地）で無料配布されます。（※なくなり次第終了）

この件についてのお問い合わせは
武庫川女子大学広報室（TEL：0798-45-3533）までお願いします

出版された「武庫川線と赤胴車」



丸山健夫教授

